

令和 7年 6月16日

## 消化器外科学講座教育・研究組織に関する提言

### 1. 講座のあり方と方向性

消化器外科学講座は、消化器外科を中心とした外科学全般の卒前・卒後教育を担当し、診療・教育・研究を通じて我が国をリードする外科医を育成することを目的とする。そのためには、先端かつ国際的な研究を推進することが求められ、特に人材の確保に努める必要がある。

### 2. 診療

消化器外科のみならず乳腺外科、甲状腺外科、移植外科、内視鏡外科などの最先端の医療を、メディカルスタッフおよび他の診療科と協力しながら提供する。外科治療では、医療安全と医療経済に留意するとともに、地域の外科医療施設と連携して、高度で効率的な外科医療を提供する。

### 3. 教育

卒前教育においては、外科学の体験を通して学生に医学の魅力を伝えることを目標とする。卒後教育においては、最先端の外科医療と研究を通して、我が国をリードし、国際的に活躍できる外科医を養成する。

### 4. 研究

他の診療・研究部門と協力して、臨床的・基礎的研究を行い、視野の広い外科医を育成する。

### 5. 社会活動

地域医療に対して積極的に貢献することが求められる。特に、地域の中核病院との人材交流、遠隔医療・教育システムの活用、医療過疎地域における診療支援の実施などを通じて、地域医療の質と持続可能性を高める責務を担う。

### 6. その他

外科医として第一に求められるものは、疾病に苦しむ者に対する深い思いやりと周術期治療を支える高い臨床能力である。患者中心の良質な外科治療を提供するためには、医療チームの一員としてメディカルスタッフと良好な関係を維持していく能力も重要である。特に、教授には、多くの外科スタッフを指導していくリーダーシップとチームをまとめる人間性が必要である。

消化器外科学講座教育・研究組織提言委員会

石橋恭之（委員長）、横山良仁（副委員長）、水上浩哉、  
三上達也、櫻庭裕丈、皆川正仁、畠山真吾、漆館聡志